

世界へ発信するお茶の水女子大学

国際フォーラム in Bangkok



第1回 国際フォーラム in Bangkok 「日本ーアジアの『知』の融和」を開催

2008年11月21日、22日、タイのバンコクにおいて「日本ーアジアの『知』の融和」をテーマに国際フォーラムを開催しました。

21日は、郷通子学長による基調講演に始まり、パネルディスカッション「アジアの知と日本の知の融合～アジアは日本に何を期待するか・日本はアジアから何を学ぶか～」では、第1部「学術研究の視点から」、第2部「産業界における人材育成の視点から」、第3部「日本語・日本文化の視点から」と3部構成で進められました。

第1部では、池島耕 JSPS バンコク研究連絡センター長より、「タイでは応用科学への期待が高く、その重要課題としてタイの豊かな生物資源の利用があり、タイに本当に必要な知識や技術を知るためには、日本人研究者がタイに来て、共に学ぶ姿勢が重要である」との指摘があり、第2部の Toray International Thailand Ltd. の Narong Lertkitsiri 会長からは、「日本の大学へ留学し、外国人採用数が若干枠である時期にも関わらず、日本企業に就職するも、日本企業文化の中で悩むこともあった。しかし、『一生懸命』の気持ちを大切に、日本人と仕事をする、自分の仕事を作り出すことを考え、仕事の成功も手に入れた。タイの若手社員にも『一生懸命』の気持ちを期待したい。」とありました。

第3部では、国際交流基金吉川竹二東南アジア総局長より、「タイにおいて日本語は文化的憧憬の対象としての側



面がある。そのことが日本留学や訪日研究の動機となった時に、タイは日本に何を求め、日本に何を提供できるのか。まちづくり、経済や教育機会の格差克服、環境問題対策、高齢社会への対応、アート、地域協力などのテーマにおいて共に学びあえる可能性がある」ことを指摘をいただき、また、本学卒業生で翻訳家である Bhusdee Navavichit さんからは、「窓際のトットちゃん」タイ語翻訳の経緯の紹介がありました。

翌22日は、本学とタイの同分野の研究者の間で相互に研究紹介を行い、優秀な大学院生を定期的に交換できる確固としたパイプを作る等、日タイ間の同分野における国際連携の構築を議論するとともに、本学及びタイ及び周辺国の研究者とアジアと日本の連携・協力による、「今」そして「これから」必要とされる新たな日本語・日本文化・日本事情教育の方向性を探る議論が行われました。